

—Focus—

「自分の仕事」の先にある、 グループの未来。

～なぜ今、私たちに「全体最適」の視点が必要なのか～

基礎工事のユウテックから運搬の勇伸運輸、そして建物工事に不可欠な楊重の高田クレーン興業まで。

グループ内でバトンを繋ぎ、一気通貫で現場を動かせることこそが、私たちの最大の強みです。

では、この「総合力」を今以上会社の発展、そして永続的な企業としていく為には、私たち一人ひとりに何ができるでしょうか。

現場をより円滑に、そして合理的に回すための鍵となる「全体最適」の視点について語ります。

私たちの最大の武器は 「トラブルに負けない総合力」

私たちは、グループ内で一気通貫して現場を動かせる環境にあります。この最大のメリットは、「圧倒的な融通の利きやすさ」と「迅速なトラブル対応力」です。外部の企業に頼る場合とは違い、現場で想定外の事態が起きても、グループ間の連携ですぐに対処できます。このスピード感と柔軟性があるからこそ、日々の現場を円滑に進めることができています。

守備範囲を超えた 「一步広い視点」が、 次の利益を生む

社員の皆さんには、目の前の仕事や自社の都合だけで完結させるのではなく、タカダグループ全体で利益を出すという視点を持ってほしいと考えています。一つのグループで仕事をしている以上、自分の所属会社・自分の仕事さえ終わればよいという考え方ではなく、連携する相手先の状況や都合まで踏み込んで考える姿勢が求められます。個々が自分の役割を全うすることは大前提ですが、それだけで終わらせず、日頃からコミュニケーションを取り合い、相手の状況を汲み取りながら、グループ全体としてスムーズに現場が回るよう配慮し合うこと。そうした「一步広い視点」を持って協力し合う姿勢を、社員の皆さんに求めています。



代表取締役社長

たかだ

しょうた

高田 将太

今後の展望

還元できる 永続的な企業を目指して

創業から40年近くが経ち、企業としての基盤は着実に安定してきました。長く続く会社になったからこそ、これから先も「永続していく企業」でありたいと強く願っています。自分の仕事に専念するだけでなく、周囲との連携という広い視野を持つこと。その小さな意識の変化が、会社の未来を創り、最終的には皆さん自身への確かな還元へと繋がっていきます。グループの強みを最大限に活かし、次のステージへ共に進んでいきましょう。

現場を動かす！

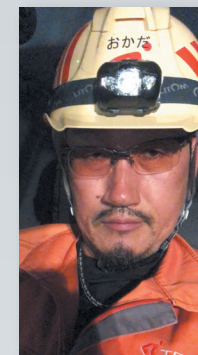
ベテランが伝える 信頼の技術

さまざまな職人が関わり合う建設現場において、スムーズな作業を進めるためには、周囲を巻き込む力が欠かせません。現場の司令塔として活躍するオペレーターは、どのようにして初対面の相手と打ち解けているのでしょうか。今回はベテランオペレーターの岡田さんに、現場に心地良い一体感を生み出し続ける巻き込み術を伺います！

信頼関係を築くために心がけていること

相手を敬い丁寧な言葉で接する姿勢

クレーンオペレーターとして35年現場に立ってきましたが、初対面の職人や監督と信頼関係を築く上で最も大切にしているのは、相手が年下であっても、必ず敬語で接することです。私はかつてプロボクシングの世界に身を置いていましたが、そこでは実績にかかわらず先輩や仲間を尊重する文化が根付いていました。その経験から、相手を一人前のプロとして敬う姿勢が人間関係の土台になると学んだのです。こちらが常に丁寧な言葉遣いと敬意を持って向き合うことで、相手の態度も和らぎ、現場全体に心地良い一体感と相互理解の土台が生まれます。

高田クレーン興業
クレーンオペレーター

おかだ もと

岡田 基さん

厳しい場面での伝達方法の工夫

専門知識に基づく 丁寧な理由の説明

現場で設置方法や作業手順めぐり意見が対立した際は、なぜその方法が良いのかという理由を専門的な知見から丁寧に説明することを心がけています。大型のオールテレーンクレーンなどは、設置向き一つで作業効率や視界が大きく変わることも。図面通りでは危険や支障があると判断した場合、論理的に仕組みを解説し納得していただくプロセスを重視します。もちろん相手の指示に従うべき場面もありますが、丁寧な対話を通じて根拠を示せば、周囲も納得感を持って主体的に動いてくださることがほとんどです。

メンバーへ仕事を任せる基準や育成支援

安全な伴走から始める 一人立ちの支援

若手へ仕事を任せる際は、事前の丁寧な指導と安全の担保を前提としています。大型機種の分解や組み立てといった危険の伴う作業では、私が横につき、実際の見本を示しながら手作業での微調整やコツを身体で覚えてもらいます。一通りの工程を安全にこなせる技術と判断力が身についた段階で、一人立ちの機会を提案。実務の成功体験を通じて自信を持たせることが、本人の成長意欲とやる気を引き出すサポートになると考えています。

安全と高い生産性のために大切にしていること

確かな操縦技術と心地の良い対話の推進

多様な職人が集まる現場で安全と生産性を両立させるために最も重要なのは、確かな技術力と適切なコミュニケーションの両立です。生活の大部分を占める仕事の時間をいかに楽しく過ごせるかで、人生の豊かさは変わります。休憩時間や無線での気さくな雑談を

通して互いの距離を縮め、気持ち良く働ける雰囲気を作るよう意識しています。ただし、そうした対話が活きるのはプロとしての高いクレーン操作技術があってこそです。腕を磨き続け、信頼される仕事をするのが現場の一元化を支えます。

現場の最前線を支える

プロに注目!

現場の安全を守りつないでいくためには、どのような技術や配慮が必要なのでしょう?当グループの基盤を支える2名の社員に、日頃の心がけや業務連携における工夫、今後目指す姿について伺いました。

松居 直さんに株式会社勇伸運輸のこれまでを伺いました!



株式会社勇伸運輸
トレーラー運転手

まつい なお
松居 直さん

現場の連携における工夫

ドライバー同士の協力や
他部署との情報共有

重機を輸送する際は、最初に現場へ入った運転手が、ルートや状況や入り口の狭さなどのリアルな情報を後続の運転手へすぐに共有しています。さらに、ルートや間口に課題がある現場では、事前に営業担当者と必ず下見を行い、現場所長や監督へスムーズな進入方法をご相談・ご提案した上で本番に挑んでいます。万が一、作業の遅れやアクシデントが発生した際も、営業や配車担当と密に連携して柔軟に対応しています。「毎日のようにクローラークレーンの組立・解体があるのは、高田クレーン興業だけ」という自負があるからこそ、全社員で報連相を徹底しています。

安全輸送に向けた核となる取り組み

荷役作業をはじめとする 基本作業の徹底

私たちの輸送部門は、低床トレーラー、高床トレーラー、段落ちトレーラー、10トンユニック車、10トン平車などに分類され、運ぶ荷物はどれも重量物ばかりです。その中でも、運転は元より、特に高度な技術とノウハウが要求されるのは、実は走行中よりも「積み込み」と「荷じめ」の工程です。意外に見落とされがちですが、重量物輸送の成否を分ける極めて重要な工程であり、この段階で誤ると、その後どれだけ慎重に運転しても取り返しがつきません。事前の入念な荷役計画こそが、私たちの技術の核心といえます。

今後の意気込み

次世代の育成に向けた思い

今後の目標は、若い世代をクレーンオペレーターやトラック運転手として新しく迎えることです。人は財産であり、人が会社を育てます。そして、全員が仕事に対して誇りと感謝の気持ちを持てる環境を作っていきたいですね。そのためには、受け身にならずに新しい行動を起こしていきます。例えば、モータースポーツへのスポンサーシップなどを提案し、車や機械が好きな若者、あるいは女性など、さまざまな方にどんどん興味を持っていただき、次世代を担う人材を育てていきたいと考えています。



TAKADA Group

TAKADA Group PRESS

Vol.45

桑原 春行さんにユウテックのこれまでを伺いました!



株式会社ユウテック
工事部

くわばら はるゆき
桑原 春行さん

高い安全性の理由

事故を防ぐ「目配り・気配り」

私たちの仕事は、1つのミスが重大な事故に直結するため、作業前に入念に話し合い、想定される危険を極力取り除くよう心がけています。他業者も出入りする現場では、協力会社の方々がスムーズに作業できる段取りが欠かせません。少人数での作業ではありますが決して横着せず、「誰がどこにいるか」を常に把握し合う徹底した目配りと気配りが、事故を防ぐ生命線となっています。

現場での対応力

全体の調和を優先しつつ、
自社の役割を果たす

現場では掘削や山留めなど、複数作業が同時進行するため、急なスケジュール変更も日常茶飯事です。その中で私がモットーとしているのは、全業者が気持ち良く作業できる環境作りです。状況に応じて私たちが一歩引いて調整役を担い、周囲との調和を保つこともあります。その上で自社の進捗も落とさず、現場全体の円滑な進行と自社の役割のバランスを取ることを日々心がけています。

チームの今後の展望

求められる仕事への向上心

今後の成長に必要なのは、仕事への向上心です。「これでいいや」と妥協せず、「あと一歩こだわって、より良い仕事にしよう」という気持ちの積み重ねが、会社の利益につながります。現在、私は現場作業に加えメンバー管理も担っております。全員がこの向上心を持って仕事に向き合えば、現場はよりスムーズに回り、皆が気持ち良く働ける環境になると考えています。

7月以降に入社された \ NEW FACE! //

新入社員をご紹介します!

2026年7月6日入社



東京高田クレーン
オペレーター
やまさき せな
山崎 瀬那さん

2026年7月6日入社



東京高田クレーン
オペレーター
さとう ただし
佐藤 正さん

2026年7月15日入社



東京高田クレーン
オペレーター
すずき ゆきのり
鈴木 幸紀さん

2026年7月15日入社



高田クレーン
組立解体見習
いわた ゆうた
岩田 優太さん

2026年8月1日入社



高田クレーン
オペレーター
たけうち ひであ
竹内 秀雄さん

2026年8月1日入社



高田クレーン
オペレーター
たけうち るい
竹内 琉衣さん

2026年8月17日入社



高田クレーン
組立解体見習
はせがわ ゆうた
長谷川 佑太さん

2026年9月1日入社



勇伸運輸
(東京)
さとう たかあき
佐藤 貴晃さん

Topics 新車を導入しました!



2026年8月27日
70セクローラークレーン
(SCX700-3C5)